

〈要約〉

博学連携を利用した鉄道科学教育について

Advanced education in railway science using museum-school collaboration

前 橋 栄 一
Eiichi Maebashi

藤 原 浩 史
Hiroshi Fujihara

近年、好景気で人気職種の鉄道界に継続して新卒者を輩出する東京交通短大においては、これまでに増して一層鉄道事業者側の負託に応える優秀な人材育成や入学希望者の学習意欲をそそる効率的な教育カリキュラム整備が必要な時代が到来している。高等教育機関の立場としても、拡大著しい鉄道系専修学校との役割分担をし、訓練でなく自ら興味や探究心旺盛な学生の育成につとめなければならない状況とも言えるのではなかろうか。

とりわけ開学時より鉄道界に深い関わりを持つ本学では、経験学とも言われる鉄道分野の経営学から理工系隣接分野である「鉄道科学」教育が重要である。特にテキスト、座学のみでは限界がある鉄道科学教育には現物を利用した解説授業などが学生の理解度の点においても効果的と思われる。そこで実物の展示や収蔵を実施している鉄道博物館等の利用などが有効と考えられるが、施設側の体制をそのまま利用するだけでは効果が不十分であり、利用者側が自ら利用法を工夫した講師解説見学授業を実践してみた。また、社会教育施設としての役割を持つこのような博物館施設と、研究・教育機関である学校法人の連携による鉄道科学分野教育の実現などを一部の博学連携人材育成事例などを参考に考察することとする。

また、学校所有実物教材の有効利用法として大学付属博物館事例などを参考に、学生参加型の施設展示・成果発表カリキュラム等の有効性についても考察を行なう。